

主要産地における平成28年産水稲の生育状況等について 第13報 (8月19日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部(平成28年8月22日)

道府県	区分	生育状況等	
		生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等(抜粋)
北海道	(全道)	生育はやや遅れているもの(遅3日)、登熟は前年並に進んでいる。草丈は88.7cmで前年並、葉数は10.7枚で前年並、葉数は609本/m ² で前年並。 <u>(北海道農政課 8月15日現在)</u>	・8月のいもち病(葉いもち・穂いもち)の発生量は前年と予報。ウツカ類とアカヒゲホソミドリカスミカメの発生量は前年並、フタオビコヤガの発生量はやや少ないと予報。 (北海道病害虫防除所、道総研中央農業試験場予察診断グループ 7月26日公表)
(生育)	(空知) 生育は前年に比べて遅れている(遅3日)、好天により登熟は順調に進んでいる。稈長は70.6cmで前年並、穂数は589本/m ² で前年並、穂長は17.0cmで前年並。(空知総合振興局 8月15日現在) (石狩) 8月上旬の高温多湿により、生育はほぼ順調である(遅1日)。草丈は89.9cmで前年並、葉数は10.9枚で前年並、葉数は615本/m ² でやや多い。(石狩総合振興局 8月15日現在) (後志) 生育は2日遅れだが、登熟は良。草丈は89.9cmで前年よりやや短く、葉数は10.8枚で前年並、葉数は616本/m ² で前年並、穂長は17.9cmでやや短く、穂数は586本/m ² で前年並、穂長は17.1cmで前年並。(後志総合振興局 8月15日現在) (胆振) 生育はやや遅い(遅3日)。草丈は90.4cmで前年並、葉数は11.0枚で前年並、葉数は537.8本/m ² でやや多い。 (胆振総合振興局 8月15日現在) (日高) 生育は前年並み(遅1日)。草丈は90.3cmで前年よりやや短く、葉数は11.0枚で前年並、葉数は502.1本/m ² でやや少ない。 (日高総合振興局 8月15日現在) (渡島) 生育は概ね前年並に推移(出穂早1日)。草丈は88.7cmで前年並、葉数は10.7枚で前年並、葉数は590本/m ² で前年並。 (渡島総合振興局 8月15日現在) (檜山) 生育は4日遅れだが、登熟は前年並に進んでいる。草丈は89.5cmで前年並、葉数は10.5枚で前年並、葉数は598.9本/m ² で前年並。(檜山総合振興局 8月15日現在) (上川) 生育は前年よりやや遅れて推移している(遅4日)。草丈は88.0cmで前年並、葉数は10.7枚で前年並、葉数は612本/m ² で前年並。(上川総合振興局 8月15日現在) (留萌) 登熟は前年並に進んでいる(早0日)。草丈は86.7cmで前年並、葉数は10.8枚で前年並、葉数は562本/m ² で前年よりやや多い。 (留萌振興局 8月15日現在) (オホーツク) 生育は前年並である(遅2日)。草丈は85.6cmで前年並、葉数は8.6枚り前年よりやや少なく、葉数は540.8本/m ² で前年並。(オホーツク総合振興局 8月15日現在)		
青森県	(生育)	・8月5日現在の出穂状況は、県全体で57%で、前年に比べて31ポイント高かった。出穂最盛期は8月5日で、前年より2日早かった。 (青森県 8月8日付) ・水稲作況(生育ステージ) (黒石) 「つがるロマン」の出穂期は8月3日で前年と同日であった。また、「青天の霹靂」の出穂期は8月3日で前年より1日遅かった。 (十和田) 「まっしぐら」の出穂期は8月1日で前年より3日早かった。 ・水稲作況(穀粒調査) (黒石) 「つがるロマン」の穀粒は、籾長、籾幅ともに前年並で、籾長×籾幅は前年比101%と前年並であった。「青天の霹靂」の穀粒は、籾長、籾幅ともに前年並で、籾長×籾幅は前年比101%と前年並であった。 (十和田) 「まっしぐら」の穀粒は、籾長はわずかに前年を下回ったが、籾幅は前年並で、籾長×籾幅は前年比97%とやや小さかった。 (青森県産産技術センター農林総合研究所 8月18日付)	・8月の穂いもちはやや少ない、紋枯病は前年並と予報。斑点米カメムシ類はやや多い、コバネイナゴは前年並、ウツカ類、フタオビコヤガ、コノメイガはやや少ないと予報。 (青森県病害虫防除所 7月28日公表)
岩手県	(生育)	・8月12日現在、県全体で95%の水田で出穂したとみられる。地帯別の出穂割合は、北上川上流96%、北上川下流96%、東部96%、北部95%である。県全体の出穂始期は8月3日頃、出穂最盛期は8月6日頃であり、出穂は前年並であった。 (岩手県 8月15日付)	・8月のいもち病(穂いもち)、紋枯病の発生量はやや多い、こま葉枯病の発生量は前年並と予報。斑点米カメムシ類の発生量はやや多い、フタオビコヤガの発生量はやや少ない、ウツカ類、ツマグロコヒイの発生量は少ないと予報。 (岩手県病害虫防除所 7月27日公表)
宮城県	(生育)	・8月18日現在、63.834ha(水稲作付見込面積の98.7%)で出穂が確認され、本年の稲刈りは8月11日となり、前年並となっている。 (宮城県 8月19日付) (美里) 8月1日現在、県全体の水稲作付見込面積の約40%で出穂が確認され、美里管内全体的出穂期は、8月2日頃(前年値：8月3日)となった。直播栽培生育調査ほでは、減数分裂期に入っており、出穂期は8月12日頃と見込まれる。 (美里農業改良普及センター 8月4日付) (仙台) 湛水直播では7月22日に幼穂形成期を迎えた(仙台市調査ほ：前年と比べ2日遅い)。出穂期は8月14日前後と予想される。乾田直播では7月10日に幼穂形成期を迎えた(大郷町・仙台市調査ほ：前年と同じ)。出穂期は8月10日前後と予想される。(仙台農業改良普及センター 7月28日付) 7月11日現在、管内のほとんどの移植水稲が、7月18日～25日の間に減数分裂期を迎える見込み。地帯区分別のひとめぼれとササニシキの出穂予想は、北部平坦で7月30日～8月6日、南部平坦で7月28日～8月5日、仙台湾岸で7月29日～8月7日、西部丘陵で8月3日～12日、山間高冷で8月9日～19日。(仙台農業改良普及センター 7月14日付) (登米) 前年と比べ草丈は前年並(前年比93～102%)、葉数は前年並(前年比94～116%)、葉数は前年並(前年並-0.7～+0.3枚)、葉色は濃い(前年並-3.5～+2.3)、幼穂長：6.4mm～34.5mm(主茎10本平均)。中生品種の出穂期は7月28日(出穂始期)～8月5日(穂揃期)頃となる見込み。(登米農業改良普及センター 7月22日付) (石巻) 7月20日現在、出穂期は早まり管内の出穂期は8月1日前後の見込み。葉数は、前年並～やや多くなり(前年比105%～113%)、葉色(SPAD値)は、ひとめぼれ(広瀬)でやや低くなり概ね前年並。幼穂長は16～122mmで、全体の穂長としては出穂の早かった前年ほど長くないが、前年よりは長い傾向になった。5月上旬田植のほ場ですすでに減数分裂期(幼穂長30mm)に達し、ひとめぼれほ場では減数分裂盛期(葉耳間長±1mm)になっていると考えられる。 (石巻農業改良普及センター 7月22日付) (本吉) 7月20日の調査の結果、生育は前回同様ほほ前年並の進展となっている。草丈・葉数・葉色はほほ前年並、葉数は前年より少なくなっている。南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、草丈・葉数・葉色ともにほほ前年並。生育調査ほの幼穂長は13～23mmで、出穂18～16日前、出穂期は8月5日～8月7日と推定されほほ前年並となる見込み。7月20日の生育調査結果から、三陸沿岸地域の出穂期間は8月6日～15日と予測されている。 (本吉農業改良普及センター 7月21日付) (栗原) 7月20日現在、生育調査ほ(ひとめぼれ)の草丈は前年並(前年比97%)、葉数は前年並(前年比102%)、葉色はやや濃く(前年比104%)、葉数は前年並(前年並+0.2枚)で、幼穂長等から生育は前年並～1日程度進んでいる。 5月6日移植の調査ほでは、減数分裂期を過ぎ、5月18日移植の調査ほではほほ減数分裂期を迎える。出穂期は8月2～3日頃と見込まれる。「つや姫」は幼穂形成期になり、出穂期は8月10日頃となる見込み。 (栗原農業改良普及センター 7月21日付) (大崎) 7月20日現在、草丈は「ほほ前年並～やや短い」。葉数は、北部平坦ササニシキ及び西部丘陵まなむすめ、山間高冷やまのしずくは、前年を大きく上回っている。北部平坦及び西部丘陵のひとめぼれは、前年を下回っている。葉数は「ほほ前年並またはやや少ない傾向」が見られる。北部平坦のひとめぼれ及びササニシキは7月18日、西部丘陵のひとめぼれは7月19日、山間高冷のやまのしずくは7月20日に減数分裂期に達したと見込まれる。今後の気温が前年並みて推移した場合、出穂期(県全体の平均)は8月3日頃(前年8月8日)になる見込み。(大崎農業改良普及センター 7月21日付) (大河原) 7月20日現在、生育ステージは前年より早めに進み、平坦部では減数分裂期に入っている。平坦な地域で田植の早かった「ひとめぼれ」や「まなむすめ」は7月末頃、山間部の「やましずく」は8月上旬の出穂が見込まれる。極晩生の「つや姫」は幼穂形成に入っている。 (大河原農業改良普及センター 7月20日付) (亶理) 7月11日現在、葉数は前年並み、草丈は前年より高くなる傾向がみられ、葉数は前年より少なくなっている。移植栽培の多いほ場で幼穂が確認され、現在幼穂形成期を迎えている。(亶理農業改良普及センター 7月13日付)	・8月の穂いもちの発生量はやや少なく、紋枯病は前年並、斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の発生量は前年並と予報。 (宮城県病害虫防除所 8月5日公表)
秋田県	(生育)	(鹿角) 7月25日の定点調査では、草丈が68.4cm(前年比94%)で短く、葉数が555本/m ² (前年比107%)で多く、葉数が11.9葉(前年-0.3葉)とやや少なくなった。葉色はSPAD値で34.8(前年比93%)と淡くなった。(7月29日付) (山本) 管内の出穂最盛期は8月4日(前年：8月3日)であった。出穂のほ場間差が大きくなっている。(8月12日付) (秋田) 管内の出穂最盛期は8月1日となり、前年より2日早くなった。(8月5日付) (由利) 管内では水稲の出穂が始まっている。(8月8日付) (仙北) 7月25日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈は69.0cmでやや短く(前年比93%)、葉数は486本/m ² で前年並(前年比103%)、葉色(SPAD値)は38.0で前年並(前年比100%)であった。葉数は11.7葉で、葉数から見た生育はやや遅い(前年並-0.5葉)状況。(7月29日付) (雄勝) 出穂の最盛期は、前年より2日遅い8月6日となった。(8月12日付) (北秋田) 8月1日現在のあきたこまちは、草丈60.7cm(前年比96%)、葉数522本/m ² (前年比88%)、葉数11.2葉(前年並±0.0)。葉数から見た生育は前年並となり、葉色は前年よりやや濃い状況。(7月22日付) (平鹿) 「あきたこまち」は、ほほ前年並に出穂期をむかえている。(8月5日付) (秋田県農林政策課)	・7月末から向こう1か月で、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想。(農林水産省 7月26日公表) ・8月の穂いもちの発生量は前年並、紋枯病はやや多いと予報。セジロフンカの発生時期は早く発生量は前年並、斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の発生時期は早く発生量はやや多く、アカヒゲホソミドリカスミカメの発生時期はやや早く発生量はやや少ないと予報。フタオビコヤガの発生時期ははや早く、発生量はやや少ないと予報。

	生育状況等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
山形	<p>・7月28日現在、幼穂の生育状況から見た出穂は、平均部「はえぬき」では8月3日頃、「つや姫」では8月13日頃と見込まれる。（オールやまがた米づくり日本一運動本部 7月28日付）</p> <p>（生育）</p> <p>・7月20日現在の「はえぬき」「つや姫」の生育は、平年と比べて、草丈、葉数、葉色は平年並で、茎数はやや少ない。まもなく出穂期を迎えるが、平年並からやや遅いと予想されている。（山形県農林水産部 7月26日付）</p> <p>（最上）7月20日現在、生育診断「はえぬき」の生育は、草丈が短く、茎数が多く、葉数がやや遅れ、葉色がやや濃く推移している。出穂期は平年並の見込み。依然として生育の圃場間差が大きい。（最上総合支庁農業技術普及課 7月22日付）</p> <p>（鶴岡田川）7月19日現在、水田農業試験場（藤島）の幼穂調査では、出穂期は中生晩の「ひとめぼれ」は8月4日、「はえぬき」8月4日で概ね平年並と見込まれている。晩生の「つや姫」、「コシヒカリ」は8月13日、平年よりやや遅い予想。（庄内総合支庁農業技術普及課 7月25日付）</p> <p>（北村山）6月30日現在、生育は平年並み。但し、圃場間の生育量にばらつきが大きい。草丈は平年並み～やや短く、茎数は平年並み～少なく、葉数は平年並み～1日早く、葉色は色ムラがみられ、やや淡いものが多い。（北村山農業技術普及課 7月5日付）</p> <p>6月30日現在、つや姫の生育状況は、指標に対し草丈は短く、茎数は並～やや少、葉色は格差が大きく、生育速度は並。例年より、ばらつきが大きい。（北村山農業技術普及課 7月5日付）</p> <p>（東南村山）管内つや姫の出穂期は8月7～11日頃。（村山総合支庁農業技術普及課 8月12日付）</p> <p>（東南置賜）6月30日現在の生育は、草丈は平年並み～やや長く、茎数は平年並み～やや少なく、葉色は平年並みの状況。葉数の進みは平年並み～やや早い状況で、今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。地域、品種、圃場間の生育のばらつきが大きい状況。（置賜地域本部実証班 7月5日付）</p> <p>6月30日現在、つや姫の生育状況は、指標と比べ、草丈は並みからやや長く、茎数は並みからやや少なく、葉数は並みからやや多く、葉色は並みからやや濃い状況。今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。予想出穂期は8月10日（平年：8月12日）。（オールやまがた米づくり日本一運動圏地域本部 7月5日付）</p> <p>（西村山）6月30日現在の生育は、葉数の進みはほぼ平年並み。草丈はほぼ平年並み、茎数は圃場により少ない。葉色はやや淡い。（村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日付）</p> <p>（酒田飽海）管内の出穂期は平年より1日早い8月5日となった。作況圃（萩島）のはえぬきの出穂期は8月3日（平年比-2日）。（酒田農業技術普及課 8月5日付）</p>	<p>・8月1日～3日の巡回調査の結果、斑点米カメムシ類（アカスジカメムシ、アカヒゲホソドリカメムシ）の発生量が県下全域でやや多いと予想。（山形県病害虫防除所 8月4日公表）</p> <p>・8月の穂いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや少ない、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想。（山形県病害虫防除所 7月27日公表）</p>
福島	<p>・農業総合センターの生育調査では、出穂期が平年並、生育量（草丈、茎数）も概ね平年並の状況。出穂期は、本部（郡山市）では、5月2日移植の「ひとめぼれ」が8月1日、「天のつぶ」が8月2日、5月16日移植の「ひとめぼれ」が8月5日となった。浜地域研究所（相馬市）では、5月10日移植の「ひとめぼれ」が8月1日、会津地域研究所（会津坂下町）では、5月20日移植の「ひとめぼれ」が8月1日となった。（福島県農林水産部 8月5日付）</p> <p>（生育）</p>	<p>・いもち病（穂いもち）、稲こうじ病の発生量はやや多い、紋枯病の発生量は平年並と予想。斑点米カメムシ類、イネツトムシの発生量はやや多いと予想。（福島県病害虫防除所 7月22日公表）</p> <p>・葉いもちの発生や穂いもちへの感染が懸念される（福島県病害虫防除所 7月22日公表）</p> <p>・7月中旬から向こう1か月で、斑点米カメムシの発生が多い予想（農林水産部 7月12日公表）</p>
茨城	<p>（水戸市）7月29日現在、出穂期は5月2日移植の「あきたこまち」で平年並、「コシヒカリ」で1日早かった。5月10日移植の「コシヒカリ」の出穂開始から予測される出穂期は、平年より3日遅い。（茨城県農業総合センター農業研究所 8月3日付）</p> <p>（生育）</p> <p>（龍ヶ崎市）8月15日現在、4月27日移植の「あきたこまち」の出穂期は、平年より3日早い7月11日、で、「コシヒカリ」の出穂期は、平年より2日早い7月22日だった。発熟積算気温による「あきたこまち」の成熟期は、平年より2日早い8月18日と予測される。また、「コシヒカリ」の成熟期は、平年より1日早い8月29日と予測される。（茨城県農業総合センター農業研究所 8月18日付）</p>	<p>・7月下旬現在、県内の斑点米カメムシ類主要種であるクモヘリカメムシの発生が多くなっている。特に、県央、鹿行および県南地域で発生が多い。（茨城県病害虫防除所 8月1日公表）</p> <p>・8月のいもち病（穂いもち）の発生量は平年並～やや少ないと予想。斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予想。紋枯病の発生量は県南と県西地域で多いと予想。紋枯病の発生量はやや多いと予想。（茨城県病害虫防除所 7月29日公表）</p>
栃木	<p>（生育）</p> <p>・8月3日の調査の結果、普通栽培（あさひの夢）の草丈は79.1cmで平年比104%と高く、茎数は432本/m²で平年比102%とやや多い。葉数は12.1で平年より0.1葉多く、葉色は4.0で平年並。葉色×茎数値は1,705で平年並。幼穂長は0.10cmで平年並。</p> <p>早稲栽培（コシヒカリ）は、出穂期～種播期となっており、平年より早まっている。収穫開始時期は、県南部が9月第6半旬、県中部が9月第1半旬、県北部（標高の高い地域を除く）が9月第2半旬からと予想される。全体的に出穂期の葉色が平年よりも淡く、高温による胴割粒、白未熟粒の発生が懸念される。（栃木県農政部 8月5日付）</p>	<p>・7月末から向こう1か月で、稲葉枯病の発生が「多い」と予想（農林水産部 7月26日公表）</p>
埼玉	<p>（生育）</p> <p>・センター内生育相（8月4日現在） 早期栽培（5月2日植 コシヒカリ）は、草丈、茎数とも概ね平年並みに推移しており、順調な生育である。出穂期は平年より5日早かった。出穂調査における予想穂数は平年並。</p> <p>早稲栽培（5月20日植 彩のかがやき）は、草丈、茎数は概ね平年並で推移しており、順調な生育である。穂数は平年並になると思われる。葉位の進展も概ね平年並で、出穂は平年並と予想される。</p> <p>普通栽培（6月24日植 キヌヒカリ）は、茎数、葉位は平年並に推移しており、順調な生育である。</p> <p>・県内全般（8月4日現在） 全般に生育は順調。早期栽培の出穂期は、平年よりも3～5日程度早まった。早稲栽培のコシヒカリでは、出穂期は概ね平年並となった。普通栽培では、概ね平年並の生育となっている。</p> <p>・今後の生育予測 早期栽培は、出穂期が早く収穫が早まると予想される。収量は、穂数が確保されていることから、平年並からやや多収になると予想される。品質は梅雨明け以降、高温が予想されることから白未熟粒の発生が懸念される。</p> <p>早稲栽培は、出穂期は平年並と予想される。収量は平年並からやや多収になると予想される。品質は出穂後20日間の平均気温が27℃以上にさらされるリスクが高まることから、白未熟粒の多発が懸念される。</p> <p>普通栽培は、生育は概ね順調に推移すると思われる。出穂期は、「彩のかがやき」では概ね平年並、「キヌヒカリ」では高温により平年並から2日程度早まると予想される。収量は平年並からやや多収になると予想される。品質は9月も高温傾向の継続が予想されることから、白未熟粒の発生が懸念される。（埼玉県農業技術研究センター 8月4日現在）</p>	<p>・8月のいもち病（穂いもち）の発生量は多いと予想。紋枯病、もみ枯細菌病、稲葉枯病の発生量は平年並と予想。ヒメトビウンカ、イネツトムシ（第2世代幼虫）、イネアオムシ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類の発生量はやや少ないと予想。（埼玉県病害虫防除所 7月29日公表）</p> <p>7月末から向こう1か月で、稲葉枯病の発生が「多い」と予想（農林水産部 7月26日公表）</p>
千葉	<p>（生育）</p> <p>・4月20日頃に播付した「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期は、平年と比較して2日から3日程度早くっており、成熟期は早いところで「ふさおとめ」は8月12日頃、「ふさこがね」は8月17日頃、「コシヒカリ」は8月25日頃からと予測される。また、5月1日頃に播付した「コシヒカリ」の出穂期は平年並となり、成熟期は早いところで9月2日頃からと予測される。なお、7月下旬の低温の影響を受け、5月10日頃に播付した場合は、出穂期がやや遅くなっている。（千葉県農林水産部 7月29日付）</p>	<p>・向こう1か月間の病害虫の発生量は、いもち病（穂いもち）は平年よりやや多く、紋枯病は平年並の予想。大型カメムシ類は多く、カスミカメムシ類はやや多いと予想。（千葉県農林総合研究センター 8月10日公表）</p> <p>・7月中旬から向こう1か月で、稲葉枯病の発生が多い予想（農林水産部 7月12日公表）</p>

	生育状況等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
新潟	<p>・8月1日現在、県平均の出穂期は、こしいぶきで平年より4日早い7月26日。また、コシヒカリでは、平年より3日早い8月4日頃の見込み。コシヒカリの生育は、指標値に比べて、草丈は「長し」、莖数は「やや多」、葉色は「並み」の状況。 (新潟県農林水産部 8月2日付)</p> <p>(魚沼) 8月1日現在、出穂期が早まったことと、登熟期間が高温で推移すると予想されていることから、収穫期が大幅に早まる見込み。収穫期の予想は、こしいぶき（平場）で8月24日、コシヒカリ（平場）で8月31日～9月2日、コシヒカリ（山場）で9月7日～14日。（JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 8月10日付）</p> <p>(糸魚川) 8月1日現在のコシヒカリ（田植え日:5月2～23日）は、指標値に比べ草丈はやや長く、莖数は多く、葉数は並、葉色はやや濃い。穂ばらみ期～出穂期のほ場が多く、平年に比べて3～4日程度早い出穂期となる見込み。こしいぶき（田植え日:5月1日）指標値に比べ草丈は長く、穂数は並、葉数は並、葉色はやや濃い。（糸魚川地域農林振興部 8月2日付）</p> <p>(巻) 穂肥の実施等により葉色は指標値並のほ場が多い。草丈はやや長く、莖数はやや多く、葉数は指標値並～やや早い。出穂期は、連年穂えのコシヒカリは出穂直前～出穂期頃であり、5月10日以降田植えでは8月5日頃になると見られる。 (巻農業普及指導センター 8月2日付)</p> <p>(岩船) 8月1日現在の生育は、指標値に比べて草丈は並～やや長、莖数は並（一部やや多）、葉数は並、葉色は並。調査ほ場（6地点）の予想出穂期は8月7日～13日。一部のコシヒカリで走り穂が見え始めている。 (村上農業普及指導センター 8月1日現在)</p> <p>(新発田) 8月1日現在、草丈は92cm（指標値105%）でやや長く、莖数は364本/m²（同比98%）で並、葉数は13.1葉（指標値差+0.3葉）で並、葉色は葉緑率22.1（同差-1.4）でやや淡い。指標値に比べ、草丈がやや長い稲家となっている。また、葉色がやや淡い。コシヒカリの出穂期は、止葉の葉耳間調査から平年並～1日早い予想（5月10日頃移植で8月8～9日）。（新発田農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>(新潟) 8月1日現在、コシヒカリの草丈はやや長く、莖数はやや多く、葉数は並、葉色は並。一部ほ場で、葉色の淡いところがみられる。（新潟県農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>(三条) 8月1日現在のコシヒカリは、草丈101cm（指標値115%）、莖数377本/m²（同比99%）、葉数12.9（指標値差-0.1）、葉色33.0（同差-1.0）。葉色は、穂肥施用等により指標値並になっている。管内のコシヒカリの出穂期は8月2日頃（前年並）と見込まれる。（三条農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>(長岡) 8月1日現在、コシヒカリの出穂期は、5月10日移植で8月1日頃と推測され、平年より3日程度早い見込。移植の早いほ場では、既に出穂が確認されている。草丈は指標値106%でやや長く、葉色（SPAD値）は指標値-0.1で並であるが、一部で葉色の淡いほ場がある。（長岡農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>(上越) 8月1日現在のコシヒカリの生育は、草丈は長く（指標値116%）、莖数はやや多く（同比107%）、葉数は並（指標値差+0.1葉）、葉色（SPAD値）はやや濃い（同差+1.3）。一部で水分不足による下葉の枯れ上がりが見られる。コシヒカリの出穂は平年より3日程度早い見込み（5/10～15の田植では8/2頃が出穂期の見込み）。こしいぶきの出穂は平年より2～4日程度早く出穂している（5/10～15の田植では7/26頃）。莖数は多く、葉色は濃くなっている。（上越農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>(佐渡) 8月1日現在のコシヒカリの生育状況（拠点ほ場8ヶ所の平均）は、草丈は91cm（指標値111%）、莖数は399本/m²（同比100%）、葉数は12.9葉（指標値差-0.1）、葉色（SPAD値）は31.9（同差-1.1）。穂肥が効いて葉色は前回より濃くなった。莖数は指標値におさまっている。（佐渡農業普及指導センター 8月1日付）</p> <p>(新潟) 8月1日現在の普及センター調査ほのコシヒカリは、指標値に比べ草丈は「やや長い」、莖数は「やや多」、葉色は「やや長い」となり、コシヒカリの出穂期予想は8月5日（平年より2日早い）、こしいぶきの出穂期（4期）は7月25日（平年より4日早い）。（新潟県農業普及指導センター 8月2日付）</p> <p>(柏崎) 8月1日現在、草丈は長く、莖数はやや多。葉色は指標値と比較して並だがほ場間差が大きくなっている。出穂期は各品種ともやや早まり、新潟次郎・越路早生は7月13日頃、わたぼうしは7月16日頃、こしいぶきは7月24日頃に出穂した。コシヒカリは8月3～4日頃と予想される。（柏崎農業普及指導センター 8月2日付）</p> <p>(十日町) 7月25日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈はやや長く、莖数はやや多く、葉色は並に維持されている。（十日町農業普及指導センター 7月25日付）</p> <p>(南魚沼) 7月25日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は「やや長」、莖数は「やや多」、葉色は「並」となっている。ほ場ごとの生育のバラツキが大きく、倒伏や栄養潤渇の懸念があるほ場が見受けられる。 (南魚沼農業普及指導センター 7月25日付)</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちも平年並、紋枯病はやや多く、穂こうし病はやや少ないと予報。 ニカメイガやアサギアブは少なく、セジロウカは平年並、ツマグロコバは平年並～やや多く、斑点米カメムシ類は多く、イネアオムシはやや多く、コブノメイガとイネトムシは平年並と予報。 (新潟県病害虫防除所 7月29日公表)</p>
富山	<p>・生育観測ほデータ(7月19日現在) (コシヒカリ) 葉齢がやや遅んでおり、草丈、莖数、葉色は、概ね平年並みに推移している。幼穂形成期は、平年より4日早い7月9日となった。出穂期は、平年より4日早い、7月31日頃と見込まれる。 (てんこもり) 葉齢は平年より進んでおり、草丈、莖数、葉色は概ね平年並みに推移している。幼穂形成期は、平年より7日早い7月9日となった。出穂期は、平年より7日早い、8月1日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付)</p> <p>・直播情報(7月19日現在) ○湛水直播栽培(カルバー) 平年に比べ葉齢は進んでおり、草丈は長く、莖数、葉色は平年並みとなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は平年並み、莖数はやや多く推移している。幼穂形成期は、平年より4日早い7月14日であった。 ○湛水表面直播栽培(鉄) 近年に比べ葉齢は進んでおり、草丈は長く、莖数はやや多く、葉色は近年並みになっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は近年並み、莖数は多く、葉色はやや淡く推移している。幼穂形成期は、近年より2日早い7月11日であった。出穂期は、近年より2日早い、8月7日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付)</p>	<p>・8月のいもち病（穂いもち）の発生量はやや少なく、紋枯病とこま葉枯病の発生量は多いと予報。 斑点米カメムシ類の発生量は、アカヒゲホソドリカスミカメは多く、アカスジカスミカメとトゲランホソカスミカメは平年並の予報。 ニカメイガ（第2世代）の発生量はやや少なく、ツマグロコバ、ヒメトビウロウカ、セジロウカの発生量はやや多く、トビウロウカとイネアオムシの発生量は少ないと予報。 (富山県農林水産総合技術センター 8月1日公表)</p> <p>・7月末から向こう1か月で、紋枯病と斑点米カメムシ類の発生が多いと予想（農林水産省 7月26日公表）</p>
石川	<p>(7月28日調査のコシヒカリの生育状況) 出穂期は、加賀地域では7月22日頃から出穂が始まり、盛期は7月26日頃と平年に比べ3～4日程度早まっている。能登地域では、出穂は始まっており、盛期は7月28～29日頃と平年に比べ4～7日程度早まると予想される。 mあたり莖数は、県平均4403本/m²、平年比103%（加賀地域105%、能登地域98%）と並んでおり、既に出穂期を迎えている圃場が多いことから、穂数は平年並に確保される見込み。 草丈は、平年比106%（加賀地域106%、能登地域108%）とやや長い。 (石川県農林水産部農林総合研究センター 7月28日調査)</p> <p>(7月19日調査の生育状況) (生育) 出穂期は、ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年に比べ加賀地域で4～7日程度、能登地域では8日程度早まった。能登ひかりは近年に比べ3～7日程度早まる見込み。コシヒカリの出穂期は、加賀地域で平年に比べ4～5日程度、能登地域は平年に比べ4～6日程度早まる見込み。 草丈は、コシヒカリで平年比107%（加賀地域107%、能登地域108%）とやや長い。ゆめみづほは、近年比111%（加賀地域110%、能登地域114%）と長い。 mあたり莖数は、コシヒカリで平年比98%（加賀地域100%、能登地域96%）と並、ゆめみづほで近年比105%（加賀地域105%、能登地域103%）と平年並。 葉色 コシヒカリの葉色は、加賀地域、能登地域とも平年並。 (石川県農林水産部農林総合研究センター 7月19日調査)</p>	<p>・8月上旬～8月下旬の穂いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多いと予報。 斑点米カメムシ類の発生量は多く、セジロウカの発生量は平年並、コブノメイガの発生量はやや多く、ツマグロコバの発生量は多いと予報。 (石川県農林総合技術センター 8月4日公表)</p> <p>・7月末から向こう1か月で、斑点米カメムシ類とツマグロコバの発生が多いと予想（農林水産省 7月26日公表）</p>
福井	<p>・8月16日現在、農業試験場における収穫期の予想は、出穂期が7月15日のハナエチゼン（5月2日播）で8月16日、出穂期が8月3日のコシヒカリ（5月20日播）で9月10日と予想。ハナエチゼンの貯水率は平年より低く推移。肥効が0.1%発生。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月17日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちも平年並で前年より多い、紋枯病は平年及び前年より多い、こま葉枯病は平年より少なく前年並と予報。 斑点米カメムシ類は平年より多く前年よりやや少ない、ツマグロコバ（第2世代）は平年よりやや多く前年より多い、セジロウカは平年より少なく前年並み、トビウロウカは平年並で前年並、イネアオムシ（第3世代）は平年より少なく前年並、コブノメイガは平年及び前年より少ない、コバネイゴは平年及び前年より多いと予報。 (福井県農業試験場 7月28日公表)</p> <p>・7月中旬から向こう1か月で、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が多いと予想（農林水産省 7月12日公表）</p>
長野	<p>(生育) 8月10日現在、肥料定点圃場（雑草5月16日播）では、「コシヒカリ」は8月3日に収穫期となった。平年より6日早く昨年より1日早い。「コシヒカリ」は7月15日から8月初旬に出穂期を迎えた圃場が多く、全般に、昨年より早く出穂している。平坦地の早生種は登熟中期で、「コシヒカリ」は穂揃い～穂刈始め。 刈り取り開始は「平年より早い」ことが予想される。 (松本農業改良普及センター)</p>	<p>・イネいもち病（穂いもち）が限内の常習発生地及び中山間地域を中心に多発する恐れがある。 (長野県病害虫防除所 8月5日公表)</p> <p>斑点米の原因となるカメムシ類の発生が多く、斑点米が多発するおそれがある。 (長野県病害虫防除所 7月19日公表)</p> <p>7月15日から向こう1ヶ月間の病害虫の発生量は、葉いもちも平年並～やや多く、紋枯病はやや多く、ツマグロコバ（第2世代）は平年並～やや多く、セジロウカは平年並、イネアオムシは平年並～やや多く、(サトウ)は平年並、斑点米カメムシ類はやや多いと予報。 (長野県病害虫防除所 7月15日公表)</p>
滋賀	<p>(生育) 各品種とも出穂期は平年より早く、成熟期も平年より早くなる見込み。7月30日現在の「コシヒカリ」は、草丈、莖数、葉色ともに平年並であった。8月10日現在の「秋の穂」は、草丈および莖数は平年並で、葉色は平年より淡かった。出穂期は、「コシヒカリ」では7月25日で平年より4日早く、秋の穂では7月27日で平年より5日早かった。 「みずがみ」の成熟期は、4月下旬～5月上旬移植の場合では8月18日前後にピークを迎えている。 5月中旬移植の場合では、8月26日前後にピークを迎える見込み。 (滋賀県農業技術振興センター 8月19日付)</p>	<p>・8月の穂いもちの発生はやや多く、紋枯病の発生量は平年並、白葉枯病の発生量はやや少ないと予報。 斑点米カメムシ類の発生量はやや多く、トビウロウカ、コブノメイガの発生量は平年並の予報。 (滋賀県病害虫防除所 8月2日公表)</p> <p>7月下旬以降、イネいもち病（穂いもち）の発生量が県下全域でやや多いと予報。（滋賀県病害虫防除所 7月28日公表）</p>
兵庫	<p>(生育) 7月25日現在の県南部の生育は平年並みで、莖数は平年並。出穂は平年並～やや早くなる見込み。県北部では、生育は平年並で、莖数がかなり少ない。出穂はやや早くなる見込み。 7月21日現在の出穂期の予測は、県南平坦部（たつの市播磨町）のヒビヒカリ（6月10日移植）で8月27日、淡路平坦部（南あわじ市播磨）のキヌヒカリ（6月20日移植）で8月19日。 (兵庫県農政環境部 7月29日付)</p>	<p>・向こう1ヶ月の病害虫の発生量は、平年と比較して穂いもちはやや少なく、紋枯病は平年並、結実病は平年並（一部でやや多い）の予報。ヒメトビウロウカ、ツマグロコバ、セジロウカはやや多く、トビウロウカ、斑点米カメムシ類、イネトムシは平年並、フタホコヤブヒはやや少なく、コブノメイガは平年並の予報。 (兵庫県病害虫防除所 8月10日公表)</p>

生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
岡山	<ul style="list-style-type: none"> ・中北部（極早生・品種）の出穂期は概ね平年並みである。穂数は平年並み～やや少なめ。登熟期が高温で推移しているため、収穫期の前進が見込まれる。 ・南部（中生・晩生 品種）は6月がやや低温で推移したことから分げつが緩慢だったが、気温も上って概ね回復し、茎数は平年並。現在、幼穂形成期を迎えている。（岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術連絡会議 8月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の葉いもち（中生種・晩生種）、穂いもち（極早生種・早生種）、白葉枯病の発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多く、穂枯れ（早生種・中生種）の発生量はやや少ないと予報。ニコメイガ、トビイロウンカ、イチモンジセリ等の発生量は平年並、セジロウカカの発生量はやや少なく、コブノメイガの発生量は少なく、カメムシ類の発生量はやや少ないと予報（岡山県 8月3日公表） ・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）
広島		<ul style="list-style-type: none"> ・8月上旬～8月下旬の穂いもちの発生量は早生品種でやや多く、中生品種で平年並の予報。トビイロウンカの発生量は平年並、セジロウカカの発生量は中生品種で多く、斑点米カメムシ類は中北部で少ない予報。（広島県西部農業技術指導所 8月9日公表） ・セジロウカカの発生量が、県南部、県中西部及び県中東部で多いと予報。8月1日から3日に実施した巡回調査の結果、過去10年で最も多い発生であった。（広島県農林水産局 8月5日公表） ・7月中旬から向こう1か月で、いもち病、セジロウカカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・5月移植のコンヒカリ・ひとめぼれでは、種揃期を経て穂熟期に差しかかってきた。5月下旬移植のきめむすめでは穂ばらみ期となり、6月移植のヒノヒカリでも、幼穂が確認できる時期となった。（JA長門大津、長門農林事務所農業部 8月10日付） <p>（生育）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月のいもち病（穂いもち）と紋枯病の発生量はやや多く、セジロウカカの発生量は平年並、トビイロウンカとコブノメイガの発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予報。（山口県病害虫防除所 8月1日公表） ・7月末から向こう1か月で、いもち病とセジロウカカの発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日公表）
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> ・早期コンヒカリ、短期あきたこまち等は登熟期となる。この時期は間断かん水が基本であるが、田面を乾かし過ぎると品質が低下するため、湿潤気味の管理に努めるよう指導。 ・普通期水稲は、幼穂形成期から出穂期を迎える。穂肥時期の予測に注意すること、また、この時期は水稲が最も水を必要とする時期であるため、浅水管理を基本とし、田面を乾燥さないように注意するよう指導。（愛媛県農林水産研究所 8月2日付） <p>（生育）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の葉いもち（普通期栽培）の発生量はやや多く、穂いもち（早期栽培）の発生量は平年並～やや多く、紋枯病の発生量は平年並、稲こじ病の発生量は平年並～やや多いと予報。ツマゴロヨコバエ、セジロウカカ、トビイロウンカ、イネネットムシ（第2世代）、フタオビコヤガ、コブノメイガの発生量は平年並、斑点米カメムシ類（短期・普通期栽培）は平年並～やや多いと予報。（愛媛県病害虫防除所 7月29日公表） ・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）
高知	<ul style="list-style-type: none"> ・早期水稲は、作期を通じて高温で推移したため、生育は早くなっている。県中央部では、極早稲品種（ナツヒカリ、南国そだち）の収穫がほぼ終了し、コンヒカリの収穫が始まっている。他の地域では8月上旬より順次収穫が始まる見込み。 ・普通期水稲は、移植後の生育は概ね良好であり、県東部では平年より2、3日早く推移している。一方、県中西部の一部では日照不足により生育が遅れている地域が見られる。（高知県病害虫防除所 8月3日） <p>（生育）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の病害虫の発生量は、いもち病（穂いもち）は県下全域で平年並と予報。ツマゴロヨコバエは県中央部と県中西部で平年並、県東部と県西部でやや少ない予報。セジロウカカは県東部と県西部で多く、県中央部と県中西部でやや多い予報。ヒメトビウンカの発生量は県中央部と県西部で多く、県東部でやや多く、県西部でやや少ない予報。トビイロウンカは県下全域で少ない予報（高知県病害虫防除所 8月3日公表） ・7月末から向こう1か月で、いもち病の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日公表）
福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・7月25日現在における水稲の生育は、草丈は平年並～13%高く、茎数は萎つくして平年より5%多く、ヒノヒカリは平年並～6%少なく、元気つくしは平年並。主稈葉数は0.4～0.6葉多く、生育は進んでいる。（福岡県農林業総合試験場 7月28日付） <p>（生育）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月のいもち病（葉いもち）の発生量は平年並と予報。セジロウカカ、コブノメイガの発生量は少なく、トビイロウンカの発生量はやや少ないと予報。（福岡県病害虫防除所 8月1日） ・7月中旬から向こう1か月で、セジロウカカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）
熊本		<ul style="list-style-type: none"> ・8月の早植え水稲の穂いもちの発生量は平年と比べやや少なく、トビイロウンカの発生量は平年並の予報。普通期水稲の葉いもちの発生量はやや少なく、トビイロウンカの発生量は平年並の予報。（熊本県病害虫防除所 7月29日公表）
宮崎	<ul style="list-style-type: none"> ・早期米生育状況（7月上旬） 出穂期～穂熟期を迎えている。平年より5日早い進度。6月後半は平年に比べ気温が高くなったため、生育が早く進んでいる。出穂最盛期は、平年より5日早い6月21日となった。草丈がやや高くなっているが、概ね順調に生育している。（JA宮崎経済連ホームページ「平成28年度早期米生育状況」8月4日付） ・早期水稲 6月30日現在の生育ステージ（県全体） 穂ばらみ期～穂熟期を迎えている。地域によって進度は異なるが、全体的に平年よりも早く生育している。降水量が平年よりも多く、日照時間は平年よりも少なくなっているが、概ね順調に生育している。 （中部地区）穂ばらみ期～乳熟期。平年より5日早い進度。出穂は6月10日から始まり、出穂始期は6月19日、出穂最盛期は6月22日となった。出穂後の生育は概ね順調。 （南部河地区）乳熟期～穂熟期。平年より8日早い進度。6月に入っても高温に推移したことから生育が進んでいる。出穂始期は6月12日、出穂最盛期6月15日、出穂終期は平年より5日早い6月23日となり、概ね順調に生育している。 （児湯地区）穂ばらみ期～乳熟期。平年より3日早い進度。降水量の多い日が数日見られ、気温が低くなったが、出穂はほぼ終了し、概ね順調に生育している。 （東臼杵南部地区）出穂期～乳熟期。平年より5日早い進度。ほとんどの地域で出穂期を迎えている。出穂最盛期は6月26日、出穂終期は7月1日となり、概ね順調に生育している。（JA宮崎経済連ホームページ「宮崎県産早期米産地情報」8月4日付） <p>（生育）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲のいもち病（葉いもち、穂いもち）の発生量が県下全域で多いと予報。（宮崎県 8月3日付） ・8月の葉いもちの発生量はやや多く、紋枯病は平年並の予報。ツマゴロヨコバエ、セジロウカカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカの発生量は平年並、コブノメイガの発生量はやや少ない予報。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 8月1日公表） ・7月中旬から向こう1か月で、いもち病、セジロウカカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）
鹿児島		<ul style="list-style-type: none"> ・8月の普通期水稲のいもち病（葉いもち、穂いもち）、紋枯病の発生量は平年並、トビイロウンカ、コブノメイガの発生量はやや少ないと予報。（鹿児島県病害虫防除所 7月27日公表） ・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を本数値情報部が取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、状況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 27年産	作況指数 27年産
		参考		参考			
		平成28年産	前年産との比較	増減率	自主的取組参考値（深堀）		
全 国	<ul style="list-style-type: none"> 8月20日～9月19日の1か月間は、気温は高い見込み。期間の前半はかなり高くなる所もある見込み。北日本では、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。東・西日本日本海側では、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並の見込み。東・西日本太平洋側では降水量は平年並が多く、日照時間は東日本太平洋側では平年並か少なく、西日本太平洋側ではほぼ平年並の見込み。（気象庁 8月18日発表） （8～10月の3か月間の見通し） 向こう3か月の気温は、全国的に高い見込み。北日本では降水量は平年並が多い見込み。8月は、北日本では、天気は数日の周期で変わり、東・西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。9月は、北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。9月は、全国的に天気は数日の周期で変わり、北日本太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。（気象庁 7月25日発表） 	7,430,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,350,000	7,442,000	104
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間のはじめの気温ははかかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（札幌管区気象台 8月18日発表） 	541,500	▲ 5,830	▲ 1.1	535,669	559,600	104
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間のはじめの気温ははかかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（仙台管区気象台 8月18日発表） 	239,877	▲ 2,583	▲ 1.1	237,294	229,800	105
岩 手	同上（仙台管区気象台）	268,321	▲ 2,889	▲ 1.1	265,432	269,400	105
宮 城	同上（仙台管区気象台）	344,906	▲ 3,714	▲ 1.1	341,193	348,400	103
秋 田	同上（仙台管区気象台）	413,092	▲ 4,448	▲ 1.1	408,644	419,400	103
山 形	同上（仙台管区気象台）	340,830	▲ 3,670	▲ 1.1	337,160	354,300	103
福 島	同上（仙台管区気象台）	335,933	▲ 3,617	▲ 1.1	332,316	342,600	101
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間のはじめの気温ははかかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁 8月18日発表） 農業用水で、鬼怒川では20%、渡良瀬川、利根川、江戸川、神流川では10%取水制限中。（国土交通省 8月5日現在） 	333,776	▲ 3,594	▲ 1.1	330,182	345,400	96
栃 木	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省） 	295,508	▲ 3,182	▲ 1.1	292,326	287,300	98
埼 玉	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省） 	149,659	▲ 1,611	▲ 1.1	148,047	152,200	97
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省） 	243,864	▲ 2,626	▲ 1.1	241,239	297,500	101
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間のはじめの気温ははかかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。（新潟地方気象台 8月18日発表） 	515,737	▲ 5,553	▲ 1.1	510,184	539,600	97
富 山	同上（新潟地方気象台）	183,672	▲ 1,978	▲ 1.1	181,695	191,200	103
石 川	同上（新潟地方気象台）	122,313	▲ 1,317	▲ 1.1	120,996	123,200	101

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	t	%	t	t	t
福井	同上（新潟地方気象台）						
長野	・関東甲信地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間のはじめの気温ははかかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は、日本海側ではほぼ平年並、太平洋側では平年並が多い見込み。 日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁 8月18日発表)	124,124	▲ 1,336	▲ 1.1	122,787	123,800	99
滋賀	・近畿地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間前半の気温ははかかなり高く、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は、日本海側ではほぼ平年並、太平洋側では平年並が多い見込み。 日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 ・近畿地方では、8月23日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.6℃以上) (大阪管区気象台 8月18日発表)	191,933	▲ 2,067	▲ 1.1	189,867	194,500	97
兵庫	同上（大阪管区気象台）						
岡山	・中国地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間前半は気温ははかかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。期間のはじめは少雨の状態が続く見込み。向こう1か月の降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 ・中国地方では、8月23日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上) (広島地方気象台 8月18日発表)	178,518	▲ 1,922	▲ 1.1	176,596	178,900	99
広島	同上（広島地方気象台）						
山口	・九州北部地方（山口県含む）の8月20日～9月19日の1か月間は、期間前半は気温がかなり高くなり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。期間のはじめは少雨の状態が続く見込み。向こう1か月の降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 ・九州北部地方（山口県含む）地方では、8月23日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.6℃以上) (福岡管区気象台 8月18日発表)	156,861	▲ 1,689	▲ 1.1	155,172	149,500	96
愛媛	・四国地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間前半は気温がかなり高くなり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。期間のはじめは少雨の状態が続く見込み。向こう1か月の降水量は平年並が多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。 ・四国地方では、8月23日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.5℃以上) (高松地方気象台 8月18日発表)	128,585	▲ 1,385	▲ 1.1	127,201	121,700	96
高知	同上（高松地方気象台）						
福岡	・九州北部地方（山口県含む）の8月20日～9月19日の1か月間は、期間前半は気温がかなり高くなり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。期間のはじめは少雨の状態が続く見込み。向こう1か月の降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 ・九州北部地方（山口県含む）地方では、8月23日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.6℃以上) (福岡管区気象台 8月18日発表)	107,601	▲ 1,159	▲ 1.1	106,443	100,700	97
熊本	同上（福岡管区気象台）						
宮崎	・九州南部地方の8月20日～9月19日の1か月間は、期間前半は気温がかなり高くなり、向こう1か月の平均気温は高くなる見込み。降水量は平年並が多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。 ・九州南部地方では、8月23日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.1℃以上) (鹿児島地方気象台 8月18日発表)	73,133	▲ 787	▲ 1.1	72,345	71,200	98
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台）						
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台）						
		49,537	▲ 533	▲ 1.1	49,003	52,800	96
		180,526	▲ 1,944	▲ 1.1	178,582	172,300	95
		187,293	▲ 2,017	▲ 1.1	185,277	171,500	97
		92,603	▲ 997	▲ 1.1	91,606	74,700	93
		109,887	▲ 1,183	▲ 1.1	108,704	95,700	95

※「主要産地における平成28年産水稻の生育状況等について」の本年度の更新は本報をもって終了致します。

参考資料:

平成28年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)
平成27年度産水稲稲の収穫量(農林水産省)
平成28年度病害虫発生予報第5号(農林水産省)

農作物の生育状況 8月15日現在(北海道 8月19日)、農作物生育状況 8月15日現在(北海道空知総合振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道石狩振興局 8月19日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道後志総合振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道胆振総合振興局 8月19日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道日高振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道渡島総合振興局 8月19日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道釧路振興局 8月19日)、
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道上川総合振興局 8月19日)、農作物生育状況調査の概要 8月15日現在(北海道留萌振興局 8月19日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月19日)、
病害虫発生予察情報第10号8月予報(北海道病害虫防除所、道総研中央農業試験場予察診断グループ 7月26日)、
8月5日現在水稲出穂状況(青森県 8月8日)、H28水稲作況(生育ステージ)・(粒穀調査)(青森県産業技術センター農林総合研究所 8月18日)、
平成28年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(青森県病害虫防除所 7月28日)、
水稲の出穂状況(8月12日現在概況速報)について(岩手県 8月15日)、
平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第5号(8月予報)(岩手県病害虫防除所 7月27日)、
平成28年度水稲の出穂状況について(8月18日現在)(宮城県農林水産部 8月19日)、平成28年度発生予察情報発生予報第7号-水稲-(宮城県病害虫防除所 7月21日)、
平成28年度産美里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 8月4日)、栗原の稲作通信平成28年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月21日)、
仙台直播情報平成28年度版第2号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月28日)、仙台稲作情報第3号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月14日)、
平成28年度大崎稲作情報第4-2号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月21日)、平成28年度産仙南稲作情報(第6号)(宮城県大町原農業改良普及センター 7月20日)、
稲作情報Vol.6(本吉農業改良普及センター 8月2日)、登米地域の稲作通信第7号(宮城県登米農業改良普及センター 7月22日付)、
平成28年度稲作情報第3号(宮城県亶理農業改良普及センター 7月13日)、稲作情報Vol.4(本吉農業改良普及センター 7月4日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 8月12日)、
平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第4号(8月予報)(秋田県病害虫防除所 7月29日)、
米づくり技術情報NO.8(オールやまがた米づくり日本一運動本部 県産米ブランド推進課 7月28日)、当面の技術対策(8月)(山形県農林水産部農業技術環境課 7月26日)、
稲作だより第9号(農上総合支庁農業技術普及課 7月22日)、おいしい米づくり情報第11号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月25日)、
稲作だより第6号徳肥特集号(村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日)、
酒田・飽海日本一米づくり情報第9号(酒田農業技術普及課 8月5日)、
稲作だより第6号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、つや姫だより第4号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、
つや姫通信第5号出穂期編(村山総合支庁農業技術普及課 8月12日)、
平成28年第1号おきたま つや姫だより(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、おきたま米づくり情報No.6(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、
水稲直播情報第3号(庄内総合支庁農業技術普及課 6月14日)、平成28年度農作物有害動物発生予察情報注意報第1号(山形県病害虫防除所 8月4日)、
平成28年度農作物有害動物発生予察情報発生予報第5号(8月)(山形県病害虫防除所 7月29日)、
主要な農作物の生育情報平成28年度第5号(福島県農林水産部 8月5日)、平成28年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(7月)(福島県病害虫防除所 7月22日)、
平成28年度病害虫発生予察情報注意報第4号(福島県病害虫防除所 7月22日)、
農研連報(水稲の生育状況)(7月29日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 8月3日)、農研連報(水稲の生育状況)(8月15日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 8月19日)、
病害虫速報No.2(茨城県病害虫防除所 8月1日)、病害虫発生予報8月号(茨城県病害虫防除所 7月29日)、
平成28年度水稲生育診断予測事業速報No.6(栃木県農政部 8月5日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(栃木県農業環境指導センター 7月22日)、
平成28年度水稲の生育概況vol.3(平成28年8月4日現在)(埼玉県農業技術研究センター 8月10日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(8月予報)(埼玉県病害虫防除所 7月29日)、
水稲の生育状況と当面の対策第6報(千葉県農林水産部 7月29日)、
平成28年度病害虫発生情報第1号(千葉県農林総合研究センター 6月9日)、平成28年度病害虫発生予報第5号(千葉県病害虫防除所 8月10日)、
平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(千葉県農林総合研究センター 7月1日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第8号)(新潟県農林水産部 8月2日)、
岩船米生育速報(8月1日現在)(村上農業普及指導センター)、新発田地域水稲生育速報No.8(新発田農業普及指導センター 8月1日)、
新潟直播速報No.8(新潟農業普及指導センター 8月1日)、水稲生育速報(巻農業普及指導センター 8月2日)、
FAX稲作速報No.12(三条農業普及指導センター 8月1日)、水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 8月1日)、
7/25稲作生育速報(十日町地域)(十日町農業普及指導センター・十日町地域農業振興協会魚沼米振興部会 7月25日)、
平成28年上越地域水稲生育速報(8月1日)(上越農業普及指導センター 8月1日)、稲作生育速報No.8(佐渡農業普及指導センター 8月1日)、
水稲生育速報No.7(新津農業普及指導センター 8月2日)、稲作情報No.6(南魚沼農業普及指導センター 7月25日)、
稲作管理情報7(柏崎農業普及指導センター 8月2日)、平成28年度糸魚川売れる米づくり水稲生育情報NO.7(糸魚川地域農林振興部 8月2日)、
緊急稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 8月10日付)、
平成28年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第6号(8月の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月29日)、
TACS情報第8号(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、直播情報(第6号)(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、
病害虫発生予報第5号(富山県農林水産総合技術センター 8月1日)、
平成28年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 7月28日)、
平成28年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-8号)(石川県農林総合研究センター 7月19日)、
病害虫発生予報第5号(石川県農林総合研究センター 8月4日)、
稲作情報No.16(8月16日水稲登熟状況、大麦圃場準備)(福井県 水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月17日)、
平成28年度農作物病害虫発生予報第5号(福井県農業試験場 6月30日)、平成28年度農作物病害虫発生予察注意報第1号(福井県農業試験場 6月28日)、
平成28年度作物技術普及情報第13号(松本農業改良普及センター)、
稲作ワンポイントアドバイス(No7)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 8月10日)、
病害虫発生予察注意報第4号(長野県病害虫防除所 8月5日)、病害虫発生予報注意報第3号(長野県病害虫防除所 7月19日)、
病害虫発生予報 第4号(長野県病害虫防除所 7月15日)、
平成28年度水稲生育診断情報No.5(滋賀県農業技術振興センター 8月19日)、平成28年病害虫発生予報第8号(滋賀県病害虫防除所 8月2日)、
病害虫発生予察注意報第4号(滋賀県病害虫防除所 7月28日)、病害虫発生予察注意報第3号(滋賀県病害虫防除所 7月14日)、
平成28年度兵庫県農業気象技術情報第1号(8月情報)について(兵庫県農政環境部 7月29日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(兵庫県病害虫防除所 8月10日)、
平成28年度病害虫発生予察情報注意報第1号(広島県農林水産局 8月5日)、広島県病害虫発生予報第6号(水稲)(広島県西部農業技術指導センター 8月10日)、
平成28年度病害虫発生予報第5号(岡山県病害虫防除所 8月3日)、水稲における当面の技術対策について(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術連絡会議 8月3日)、
稲作ワンポイントアドバイス(No6)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 8月1日)、農作物病害虫発生予報8月(山口県病害虫防除所 8月1日)、
気象情報に基づく技術対策-作物(愛媛県農林水産研究所 8月2日)、病害虫発生予報(8月)(愛媛県病害虫防除所 7月29日)、
平成28年度病害虫発生予報7月報・平成28年度病害虫発生予報第5号(8月)(高知県病害虫防除所 8月3日)、
平成28年度病害虫発生予報第5号(8月)(福岡県病害虫防除所 8月1日)、福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林総合試験場 7月27日)、
福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林総合試験場 7月28日)、平成28年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(熊本県病害虫防除所 7月29日)、
平成28年度産早期米生育状況・平成28年度産宮崎産早期米産地情報(平成28年6月30日現在)(宮崎経済連ホームページhttp://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html 8月4日)、
平成28年度病害虫発生予察注意報第2号(宮崎県 8月3日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 8月1日)、
平成28年度病害虫発生予報5号(8月)(鹿児島県病害虫防除所 7月27日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)、
高温に関する異常天候早期警戒情報(気象庁 8月18日)、エルニーニョ監視速報(No. 285)(気象庁地球環境・海洋部 6月10日)
平成28年度水稲状況について(8月5日0時現在)(国土交通省 平成28年 8月5日)